ヒメユズリハ群落

ヒメユズリハは、ドウダイグサ科の常緑の高木です。オブノキやヤブニッケイなどと共に群落を形成します。シデコブシ群落の中にも群生しています。

ハンノキ群落

ハンノキはカバノキ科の落葉広葉樹。湿地を好む樹木で、指定地内には花が咲いたキクサバハンノキが見られます。

ウバメガシ群落

ウバメガシはブナ科の常緑広葉樹。葉は小さく、硬い性質を有しています。新潟平野では山の麓上部に多く分布しています。指定地内では湿地中心に生えています。

ヒトモトススキ群落

1mを超える大型のカヤツリグサ科の植物で、海岸線沿の海岸近くに生えます。この植物がシデコブシと共存し見られるのは珍しいことです。群生するため、他の植物と群落を形成しにくいと考えられます。

藤七原湿地植物群落

藤七原湿地植物群落

藤七原湿地で見られる花たちです。

とうしちはらしつち しょくぶつぐんらく

開花期一覧

サワシロギク

ノハナショウブ　ミズギク

シデコブシ季節の変化

冬

春

夏

田原市指定天然記念物

藤七原湿地植物群落

とうしちはらしつち しょくぶつぐんらく

田原市教育委員会

春、いっせいに咲き誇る姿は壮観です。

シデコブシ群落

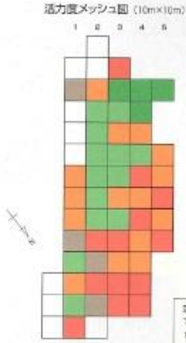
植物は通常、複数の種類が一緒に生えるもので、このグループを群落と言います。シデコブシ群落はハンノキ、ノリウツギなどと群落を構成しています。また、下草にはオンマイ、ヌマガヤ、ヒトモトススキなどが生えています。

藤七原湿地植物群落

藤七原湿地の特色

衣笠山の東北斜面に成立した広い湿地です。チャートの縁が堆積し、そこはシデコブシ群落中心の低木林になっています。所々にヌマガヤ群落、ヒトモトススキ群落があります。ヌマガヤ群落には、ミズギク、ノハナショウブ、サワシロギクなども生えています。

活力度メッシュ図（10m×10m）



シデコブシの元気さを「活力度」として色で表現しました。湿地の上部は元気ですが、下部は衰弱しています。

活力度分布

高い	4.0～
	3.0～3.9
	2.7～2.9
	2.0～2.6
低い	～1.9

活力度の基準

下記を基準に調べたものです。

1 大枝が残る……枯れ部分 3/4
2 大枝腐朽枯れ…枯れ部分 1/2
3 大枝切れ……枯れ部分 1/4
4 複数の枝枯れ…枯れ部分 1/6
5 枝枯れ無数……

田原市指定天然記念物

藤七原湿地植物群落

シデコブシ

モクレン科の落葉低木。藤七原湿地には1500本ものシデコブシが生えています。山地にみられるタムシバは同じ仲間です。

形態と生態の特徴

樹形

幹は株立ちすることが多く、樹高も低いことが多いようです。根は浅く、地表近くに分布しています。倒れた枝から根や芽が出る倒木更新を行います。

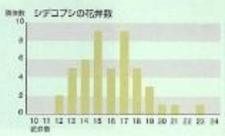
分布

分布地は東海3県の伊勢湾周辺に限定されています。この分布から「第伊勢湾要素植物」と呼んでいます。

シデコブシの分布

花

花は花びら（花被片）が何枚も出ます。この様子が「しで」（注連縄に垂れ下がった紙）に似ていることから、シデコブシの名がつけられました。花の色も白からピンクまで多様です。



地形（微地形分布）

指定地全体が谷の上流部に位置しています。その中でも微地形によって生育地はきまり、水がしみ出る周辺にかたまって生えています。

指定理由

シデコブシの群生地として有数の規模を誇っています。その株数は1500余株を数え、また、シデコブシだけでなく貴重な湿地植物も分布しています。湿地の保存状態も良好で、田原が誇る財産として保護していきます。

指定日　平成3年3月22日
指定地　田原市田原町衣笠1-1
　　田原市田原町横沢17.17-1.34
指定面積　5417.87㎡

参考資料

科学の自然観察1	春の自然観察（1991）	愛知県
藤七原湿地植物群落	調査報告書（1994）	田原町教育委員会
藤七原湿地植物群落	調査報告書（2003）	田原市教育委員会
中田 王	樹木の活力度（2004）	地球（社団）

発行　田原市教育委員会/2005.2.28
愛知県田原市田原町南番場30-1/〒441-3492
TEL0531-23-3531
このリーフレットは再生紙を使用しています。

田原市指定天然記念物
藤七原湿地植物群落